

移行期にある国際秩序と 中東・アフリカ

日本国際問題研究所編



公益財団法人 日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

目 次

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 序章 | 移行期にある国際秩序と中東・アフリカ.....立山 良司.....1 |
| | はじめに...1 |
| | 1. ウクライナ戦争と中東諸国の「中立」...2 |
| | 2. 対決から「和解」へ...3 |
| | 3. 脆弱な統治の根底にあるもの...5 |
| 第1章 | 米国の中東政策の曲がり角.....小野沢 透.....7 |
| | はじめに...7 |
| | 1. 歴史的位置...7 |
| | 2. 「革命的撤退論」の登場...10 |
| | 3. バイデン政権の中東政策の変化：中東歴訪と国家安全保障戦略...12 |
| | 4. ウクライナ戦争の影響...18 |
| | むすびにかえて...21 |
| | <補論>...23 |
| 第2章 | 強化される「緩い相互支持」.....八塚 正晃.....29 |
| | ——中東地域における中国の大国外交の射程と限界—— |
| | はじめに...29 |
| | 1. 中東地域における中国のプレゼンスの様態...30 |
| | 2. 中国の中東関与に作用する諸要因の検討...35 |
| | おわりに...43 |
| 第3章 | 過渡期のイラン.....貫井 万里.....49 |
| | ——核問題と「女性、命、自由」運動に揺れるイスラーム体制の行方—— |
| | はじめに...49 |
| | 1. 核問題の変遷とJCPOAの停滞...50 |
| | 2. イラン革命後の主要な抗議活動...54 |
| | おわりに...64 |

第4章 外交、安全保障面から見たサウジアラビアの変化…中西 俊裕…69

はじめに…69

1. 米同時多発テロ前後のサウジ外交…69
2. イラク戦争後 アルカーイダとイランの脅威…72
3. イラン核開発問題の深刻化…75
4. 米国の中東離れとイエメン介入に至る過程…78
5. 大国との関係…82

おわりに…85

**第5章 GCC 諸国をめぐる企業進出と労働移動から見た
経済関係の変化…齋藤 純…89**

はじめに…89

1. GCC 諸国の経済開発ビジョンと脱石油政策…90
2. GCC 諸国の経済関係の変化…95

おわりに…103

第6章 イスラエル・パレスチナ問題の現在…立山 良司…109
——同時進行するイスラエル・アラブ関係拡大と「一国家二民族」状況——

はじめに…109

1. イスラエル・アラブ関係の変化…110
2. 悪化するパレスチナ占領地情勢…114
3. イスラエル内政の混乱とネタニヤフ右派政権の成立…117

おわりに…121

**第7章 ハイブリッド・ガバナンスから読み解く
イラクの混迷の組閣交渉…吉岡 明子…125**

はじめに…125

1. 2003年以降の政治秩序の構築…126
2. 2021年選挙後の組閣交渉…134

おわりに…137

| | |
|---------------|--|
| 第 8 章 | トルコ外交と国連改革 柿崎 正樹 ... 141 |
| | ——国連安保理批判から見るトルコの世界認識—— |
| | はじめに ... 141 |
| | 1. トルコと国連 ... 142 |
| | 2. 公正発展党政権下のトルコと国連 ... 144 |
| | 3. トルコの国連批判 ... 149 |
| | おわりに ... 152 |
| 第 9 章 | 変革期のエジプト 鈴木 恵美 ... 155 |
| | ——したたかに生き残る国軍の支配体制—— |
| | はじめに ... 155 |
| | 1. ズフル・ガス田の発見に伴う変化 ... 156 |
| | 2. 外交関係の今後 ... 158 |
| | 3. 国軍を中核とした国家体制の今後 ... 162 |
| | おわりに ... 166 |
| 第 10 章 | 「薄い覇権」下のインド・太平洋と「アフリカの角」 ... 遠藤 貢 ... 169 |
| | はじめに ... 169 |
| | 1. 冷戦後の「アフリカの角」 ... 170 |
| | 2. 近年の「アフリカの角」のダイナミズム ... 173 |
| | 3. 流動化する中東と「アフリカの角」 ... 175 |
| | 4. 「アフリカの角」の現在、中東、そして「グローバル・パワー」 ... 180 |
| | むすびにかえて ... 182 |
| 第 11 章 | ウクライナ危機と中東・アフリカ 井堂 有子 ... 187 |
| | ——「人間の安全保障」としての食糧問題—— |
| | はじめに ... 187 |
| | 1. ウクライナ危機と黒海封鎖に震撼した 2022 年の世界 ... 188 |
| | 2. 黒海封鎖と「黒海穀物イニシアティブ」 ... 192 |
| | 3. 中東・アフリカ地域の構造的課題 ... 196 |
| | おわりに ... 201 |

執筆者紹介

刊行にあたって

本書は、当研究所の令和4年度外務省外交・安全保障調査研究事業（総合事業）「米中関係を越えて一自由で開かれた地域秩序構築の『機軸国家日本』のインド太平洋戦略」のサブ・プロジェクトの一つとして実施してきた研究プロジェクト「中東・アフリカ」研究会の成果を踏まえ、書籍化したものです。

世界がコロナ禍からの回復に一進一退を続ける中、あらゆる領域で米中間の対立と戦略的競争の激化は続いてきました。その最中に発生した2022年2月以降のウクライナ危機は、従来の国際秩序や国連中心のマルチラテラリズムの真価を改めて問い直し、各々の国益を優先する現実主義と個々の連帯によって世界が分断されている実像を顕わにしました。

「インド太平洋地域」は、アジア太平洋からインド洋を経て中東・アフリカに至る世界経済の中心です。自由で開かれたインド太平洋の秩序形成における「機軸国家」たらんとする日本にとって、特にインド太平洋の西縁に位置する中東・アフリカ地域の情勢は日本の国家安全保障に大きく関わる課題です。1970年代の二度にわたるオイルショックから半世紀経とうとする現在においてなお、日本は石油の90%を中東地域からの輸入に依存しています。脱炭素化と脱ロシア化への国際的潮流が進むとしても、日本を含むアジアにとって中東地域が依然戦略的に重要であることに変わりはありません。また近年グローバル・サウスという概念で示される通り、世界の多様化が進む中、2050年には世界人口の約4人に1人がアフリカ出身になるとも予想されています。1993年に始まったTICADが示す通り、アフリカの発展へのコミットメントは日本の未来への投資でもあります。

従来、ペルシア湾、紅海、地中海の周辺では、輸送ルートとエネルギー・食糧資源の確保を目指し、中東域内外の国家間の競合が激化してきました。今般のウクライナ危機と黒海封鎖によって有事におけるサプライチェーンの脆弱性が露呈しましたが、これに直撃を受けた中東・アフリカ地域ではエネルギーと食糧の双方で複雑な動きが観察されます。本研究会では、国際公共財としてのエネルギー供給ルートの安全と、地球規模課題である対テロや紛争防止の観点から、同地域に焦点を当てつつ、地政学、地域研究、海洋・経済・エネルギー・食糧安全保障等の多角的アプローチからこの動向の諸相を明らかにするとともに、近年注目が集まる中国とこの地域の間外交・経済・安全保障関係にも光を当てました。

なお、本書に表明されている見解は全て個人のものであり、当研究所の意見を代表

するものではありません。本報告が、混迷を深める現代の中東・アフリカ情勢を様々な観点から理解する上での一助となり、わが国の外交実践に寄与することを心より祈願します。最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力頂いた研究会主査の立山良司防衛大学校名誉教授と研究会委員の皆様に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

令和5年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐々江 賢一郎